

消 息

宮島英昭先生のご定年退職にあたって

宮島英昭先生はめでたく古稀を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年 3 月末日をもって退職されました。また、研究教育両面における永年の功績に対して、4 月 1 日付で名誉教授の称号が贈呈されました。先生のご退職にあたり、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

宮島先生は 1955 年生まれで、1978 年 3 月立教大学経済学部経営学科を卒業され、引き続き同大学大学院経済学研究科修士課程に進まれました。その後、東京大学大学院経済学研究科博士課程へと進学され、博士課程を満期で終えられた後、1985 年 4 月同大学社会科学研究所助手に嘱任されました。早稲田大学商学部には 1987 年 4 月専任講師として着任され、1989 年 4 月に助教授、1995 年 4 月に教授（改組により 2004 年 9 月から商学学術院教授）へと昇任されました。先生は当時、商学部で取り入れた公募方式による教員採用の第 1 号でありました。専任講師に嘱任されて以来、39 年の長きにわたって早稲田大学において研究・教育の時間を過ごされました。

先生は、日本経済論やコーポレートガバナンスを中心に研究を展開され、多くの業績を残されました。2004 年 9 月に出版された『産業政策と企業統治の経済史：日本経済発展のミクロ分析』（有斐閣）は学位論文のもとになった著作であり、翌 2005 年 2 月早稲田大学から博士（商学）の学位が授与されました。先生は日本経済を企業の成長という視点から実証的に分析され、とりわけファイナンス論などを基盤として企業統治や企業システムを対象に研究されました。同時に先生は国際的な研究発信にも注力されるとともに、研究の国際交流を積極的に推進され、研究者間のネットワークの形成にも当たられました。また、財務省財務総合研究所特別研究官（2001 年 1 月から 2004 年 3 月）、独立行政法人経済産業研究所ファカルティフェロー（2002 年 7 月から現在に至る）、経済産業省企業価値向上に向けた海外資本活用に関する研究会座長（2024 年 12 月から 2025 年 4 月）などを務められ、研究の経済政策や産業政策への応用にも貢献されてい

ます。令和3(2021)年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けられ、このことを以ってして先生の研究力の高さを物語ることができます。宮島先生のご教育・研究上の功績について詳細な紹介は久保克行先生による消息をご参照ください。

学内においては、高等研究所の副所長(2006年9月から2010年9月)および所長(2010年9月から2018年9月)を歴任され、早稲田大学全体の研究水準の向上に尽力されました。引き続き2018年9月からは財務担当の常任理事として大学全体を俯瞰する立場から活躍されています。単に大学財政の健全化に努めるだけでなく、長期的な財務基盤の強化にも傾注され、2017年に設けられた「Waseda Endowment」の拡充を通じて研究や教育のための資金確保に寄与されました。寄附にもとづく基金の運用益を新たな専任教員の採用につなげる「寄附チェア制度」、研究促進を目的とした「インセンティブ給」の創設など研究力を高める諸施策の背景には、これまでの先生の研究者としての経験や知見があります。研究環境を改善することが先生の狙いであり、大学に多くの恩恵をもたらすものと思います。

私は1985年4月に商学部に入学ですので、ちょうど3年生のときに友人が着任早々の先生の「英語経済学」を受講しました。若い頃の先生は厳しかったようで、友人が「大変だ」と言っていたことを思い出します。私が教員になってからは同じコース、トラックに所属し、先輩として種々ご指導をいただきました。また、通勤の経路が同じということもあって、電車の中でお目にかかることもあり、楽しい会話の時間を過ごすことができました。学部運営委員会におけるご退職前のご挨拶の内容も研究についてであり、われわれ後進に研究者としてのあり方をご教示いただきました。

ご退職後も先生の研究はさらに深化するものと思われます。古稀とは思えないほど若々しい先生ですが、今後ともご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の早稲田大学とりわけ商学部に対する多大なご貢献に心から感謝を申し上げます。宮島先生、長きにわたり、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同校友会長
横山 将義